

5 コンビナート火災による被害

地震の揺れにより貯蔵容量2,000m³の液化石油ガスタンク1基が倒壊して、ガス送油管が破損し炎上、計5回の爆発が発生し、隣接する16基のタンクが損壊した。

人的被害は重軽傷者6名で、爆風による飛散物落下等により住宅の窓ガラス等が破損したほか一時近隣住民約1,000名に避難勧告が出された。



黒い煙を上げて燃え盛る石油コンビナート
(市原市)

市原市内で避難所となった学校では、1回目の爆発で重症者が出たため、校庭にドクターヘリが着陸したり、地域住民や近隣工場等からの避難者約300名が避難してきた。

※ 写真は海上保安庁千葉海上保安部提供

さらに、その後の爆発で、この避難場所の安全が確保できないということで、別の場所に避難者をバスで輸送することとなるなど、想定外の連続であった。

また、コンビナート火災にともない、「有害物質が雨などと一緒に降ってくる」というチェーンメールが飛び交うといった風評被害もあった。災害時には、誤情報かどうかの見極めが重要であるといった一面も見逃せない出来事であった。

(1) 市原市立若葉小学校（1次避難場所）からの報告

ア 震災当日の様子

[3月11日(金)]

| 時間 | その時の状況と対応など |
|----------|--|
| 14:46 ころ | ・地震発生、その後大きな余震が繰り返し発生 |
| 15:15 ころ | ・児童下校後のため、全職員で学区の見回りをする。 ※ 学区の異常なし。工場地帯から黒煙が上がる。 |
| 15:40 ころ | ・コスモ爆発 |
| 15:45 ころ | ・最初の避難者3名が避難してくる。 ※ 学校職員で体育館にマットを敷き、ストーブを設置する等の対応をとる。 |

| | |
|-----------------------------|---|
| <p>16:00 ころ (40 分程)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ドクターヘリが校庭に着陸し、コスモ爆発での重傷者1名を搬送する。携帯電話が使えないため、校長室の電話をドクターが連絡に使用した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |
| <p>17:00 ころ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・2回目のコスモの爆発 <ul style="list-style-type: none"> ※ 周り全体がオレンジ色に変わり、熱風が伝わってくる。 ※ 体育館内の上方より、小さな破片等が落下する。 ※ 校舎3階の廊下の窓ガラスが爆風で1枚破損する。1階網入りのガラスにヒビがはいる。 |
| <p>17:15 ころ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・市教委に、若葉小は避難場所として安全では無いことを伝え、指示を待つ。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 避難者は増え続け、学校職員が対応にあたる。(この時点で避難者数十名) |
| <p>18:00 ころ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・市の災害対策本部から派遣された市職員が3名来校。国分寺台西小学校に避難場所が変更になったこと及び輸送用のバスが向かっていることを避難者へ伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 学校職員16名で、車の誘導、指示の徹底にあたる。 ※ この時点で体育館内や玄関、駐車場周辺の避難者300名程度(避難者：地域住民+コスモ近隣の企業社員100名程度) ・輸送バス2～3台で3km程離れた2次避難場所にピストン輸送 <ul style="list-style-type: none"> ※ 車で2次避難場所(その後国分寺台西小学校がいっぱいになり国分寺台東小学校へ変更)向かう避難者も多く、学校職員が校門前の道路の交通整理にあたる。 |
| <p>20:00 ころ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ避難終了 |
| <p>20:30 ころ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・市の職員は他の避難場所へ移動。女性職員7名へ、帰宅の指示 <ul style="list-style-type: none"> ※ 全男性職員9名で、その後、避難してきた地域住民の対応をする。また、帰宅後避難してきた住民に対し、家族がどこに避難 |

| | |
|----------|--|
| | しているか（国分寺台の西小・東小・西中のどこにいるのか）を調べる等の対応にもあたる。 |
| 23:00 ころ | ・市教委より、「学校の待機の解除が出たが、若葉小は引き続き地域住民の対応をお願いします」との連絡が入る。 |
| 23:30 ころ | ・市教委より1名が様子を見に来校し激励を受ける。 ※ 12日午前2時頃に地域の老人が避難してきたため、保健室で仮眠をとってもらう。 |

[3月12日（土）]

| 時間 | その時の状況と対応など |
|----------|---|
| 7:00 ころ | ・避難勧告解除の連絡が市教委より入り、「解散して良い」との指示を受ける。 ※ 校長，教頭，事務職員以外帰宅 ※ 高架水槽の濁水警報が鳴った為，施設課と連絡をとり対応 ※ ガラス破損の修理を業者と連絡をとり対応 |
| 12:00 ころ | ・作業が終了し解散，全職員帰宅する。 |

イ 震災から学んだこと

東日本大震災では、千葉県においても津波や液状化による大きな被害が報告されているが、本校においては、「コスモ石油千葉製油所の爆発・火災事故」による学区特有の被害を受けることになった。また、一時的とはいえ、体育館を避難所として開放することも初めての経験となった。平成13年に起きた池田小学校の事件を受け、火災及び地震に加えて「不審者侵入」を想定した避難訓練が定着してきたが、10年が経ち、「津波」及び「近隣工場の非常事態」というまた新たな想定が加わった。原発事故後「想定外」という言葉が多く聞かれたが、想像力を働かせてあらゆることを想定し危機管理することがいかに重要であるかを、今回の震災で改めて学ばされた。また、休業日も含めて突発的に避難所を開設する可能性もあることから、地域との連携を今まで以上に深めていかななくてはならないと感じている。

ウ 今後の対応策

今年度、市原市教育委員会では東日本大震災を受けて「大地震発生時の対応マニュアル」を作成し、市内の全公立小中学校はこのマニュアルを活用した「防災計画書」の策定を行った。本校においても、今までの防災計画を見直す中で、大津波発生及び工業地帯非常時の避難について課題が浮き彫りになり、避難方法等の見直しや、それに伴った訓練の実施を計画に加えることにした。また、避難所の開放については、すでに組織されている学区民会議の議題に取り上げていく必要があると考えている。

(2) 市原市立国分寺台西中学校（2次避難場所）からの報告

ア 開設準備と開設時の状況

[3月11日（金）]

| 時間 | その時の状況と対応など |
|----------|---|
| 17:10 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会から若葉地区の住民がバスに分乗して本校に避難してくる趣旨の連絡がある。 ※（職員の動き）職員15名 <ul style="list-style-type: none"> ①体育館の開放 ②車の誘導 ③体育館の暖房 ④避難者の受付名簿の作成と受付 ⑤体育館への誘導 ⑥放送の準備 ⑦掲示板の設置 ⑧お湯を沸かす 上記の内容を学校に残っている職員に分担し活動してもらう。 |
| 17:15 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・市役所から避難所の担当者が10名ほど到着。その後、責任者の方の指示で活動。避難者が約180名程度になる。 ※（職員の動き）職員15名 <ul style="list-style-type: none"> ①体育館に洋式のトイレがないため洋式トイレの必要な人を案内したり，車いすでの移動の介助 ②受付の手伝い ③安否確認のため避難所に来られた人の対応 |
| 17:30 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・五井地区に避難勧告が出たことにより，若葉地区だけでなく千種地区方面からも避難者が自家用車で避難してくる。市の職員も同行してくる。 ※（職員の動き）職員15名 <ul style="list-style-type: none"> ①校庭を駐車場として開放 ②車の誘導 ③街灯がないため校舎の明かりをつける ④お年寄りの歩行の手伝い |
| 18:10 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・市役所から支給された物資の配布 ※（職員の動き）職員15名 <ul style="list-style-type: none"> ①物資の搬送の手伝い ②避難者への受け渡しの手伝い ※ 食事までの間に，市の職員と避難者の方の要望等に対応する。 ※ 具合が悪くなった人のために保健室開放・授乳のために相談室開放 |
| 18:40 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアが釜や特設のトイレ等を設置 |
| 19:00 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・夕食の準備 避難者に食事の配布 ※（職員の動き）職員15名 ①食事（レトルトパック）の準備・配布の手伝い |
| 19:30 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアが相談窓口を設置 ※ 警察官が警備と交通整理のため来校，待機場所設置 |
| 20:00 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・食事の片付け ※（職員の動き）職員15名 ①食事の片付けの手伝い ※ 食事終了，市の職員の担当が入れ替わる。 |

| | |
|----------|---|
| | 職員の食事と休憩を交代でするようにする。 |
| 21:00 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・避難所への出入りも少なくなり，避難者も落ち着いたので，残っている職員に一時帰宅するように連絡。再度手伝いに来れる人は4時に出勤とした。 ※ 市の職員と連絡を取りながら手伝いと校内巡視 |
| 22:00 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・職員の一部帰宅 |

[3月12日 (土)]

| 時間 | その時の状況と対応など |
|---------|---|
| 4:00 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・一時帰宅した職員来校 |
| 5:00 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・朝食の準備 (職員の動き) 職員12名 お湯の準備朝食配布 |
| 6:00 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ※ (職員の動き) 職員12名 ①食事の準備と配布 ②片付け |
| 7:00 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告解除 ※ (職員の動き) 職員12名 ①避難していく人の車の誘導 ②体育館での誘導 |
| 7:30 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・避難者退去完了 避難場所の片付け ※ (職員の動き) 職員12名 ①学校備品の片付 ②校内の確認 ③市役所からの物資の片付けの手伝い。 |
| 8:30 ころ | <ul style="list-style-type: none"> ・片付け終了 |

イ 避難所を開設する中で，今後の「教訓」となったこと

① 体育館が避難場所になったが，課題が多くあった。

- ・床が冷たい，多くの人数分のスリッパが用意できないため，土足での体育館への出入りを許可したが，床が汚れ，傷つくので，土足でも入室できるビニールシートなどのカバーがあったらと思った。
- ・避難してくる人の中には，体の不自由な人もおり，体育館入り口にスロープがなく車いすでの入室に介助が数人必要になった。また，トイレも狭く，様式でないため，校舎の様式のある場所まで誘導していくが多かった。体育館が避難場所になることを考え，体の不自由な人，高齢者のためにバリアフリーにすべきだと感じた。
- ・避難してくる人に対して，暖房は今回準備できたが，場合によっては灯油等がなく準備できない場合もある。また，避難してくる人に毛布やシートなどを配布することもできず，学校に備蓄品が準備されていると避難者にすぐに配布でき安心感を与えることができると感じた。

② 避難所開設にともない「教訓・学んだこと」

- ・避難所の開設には，多くの人手が必要であることが分かった。
また，最初の開設準備が整った中で避難者が来る場合とそうでない場合では，避難者の安心感が違うことが分かった。

- ・避難者の受付名簿の作成とお湯を沸かすことを実施したが、名簿は、安否確認や性別・年齢等で今後の避難所の運営等に関わり、大変に役立つことが多かった。また、お湯は食事等の準備やその他の活動で役立つことが多かった。
- ・対策本部，教育委員会から電話での連絡が多くあったが，電話がつながりにくく，他の場所の避難所に連絡するにも連絡が取れず，大変困った。対策本部や他の避難所との連絡が取れるよう，無線等の準備が必要に思った。
- ・避難者の中に，体の不自由な人や高齢者が多くいることが分かった。そういう人のための事前の準備が必要だと感じた。
- ・避難場所になったときの事前の協議を防災課と打ち合わせていれば対応に余裕があったよう感じた。

ウ 学校として，見直しを図ったこと。

- ① 避難所開設のマニュアルを作成し職員と共通理解を図った。
 - ・校内の避難所としての利用計画の作成
 - ・体育館の開放時の鍵の保管者を地区の人にもお願いした。
 - ・避難所開設時，避難所開設後の職員の分担を明確にした。
 - ・教育活動再開に向けてのマニュアルを作成した。
 - ・生徒，保護者に災害時の確認事項を徹底した。
- ② 学校で準備できる備蓄品を徐々に準備したり，校内の設備についても見直しを図っている。
 - ・体育館のバリアフリー化を教育委員会に要望
 - ・校内に備蓄品を配備するよう，防災課に要望
 - ・AEDの場所を今までより使いやすい場所に移動
 - ・トイレの水を溜置きしている。

(3) 県立千葉工業高等学校からの報告

東日本大震災発災時の学校内外の状況と対応

－ 身近な近隣環境の危機について －

本校は、千葉市の中心部から南に6キロほどの生実（おゆみ）地区の高台にある。鉄筋コンクリート造4階建ての校舎は、西側の高速道からもよく見え、JR線、国道357号線を越えれば1.5キロほどで千葉港に出る。サッカー競技場や巨大な製鉄工場、火力発電所の煙突などがランドマークとなっており、来訪された方には、最上階の4階からの景観を案内しつつ、技術者育成の専門高校として恵まれた立地にあることを紹介していた。

しかし、3月11日の夕刻からは状況が一変し、身近だった近隣環境に潜在的なリスクがあったことを思い知らされることになった。生徒たちの目には、工場地帯から立ち上る幾筋もの火煙が映り、数度にわたるガスタンクの爆発炎上、上空800mにまで達したとされるキノコ雲の影に不安な一夜を明かすことになった。帰宅困難の状況下にありながらよく耐えたと思っている。



ガスタンク爆発の黒煙が空に広がる(写真:網代昭仁教諭)

本校職員の献身的な協力で支えた、地震発生直後から翌朝までの対応状況を別表にまとめた。また、発災とその後の状況を、感想を加えて以下に述べる。

ア その日の校内では…

全日制の生徒は、学年末試験の最終日だったため午前中で大半の生徒が下校したが、部活動や補習等で1・2年生の61名が残っていた。定時制の生徒たちは、学年末考査の開始前だったので登校していなかった。校内では、専門学科の協議会が開催され、他校の関係職員が約40名近く来校していた。

初期微動（P波）をほとんど感じない不思議な地震だったが、校舎全体が大きく揺さぶられ尋常でない災害が襲ってきたことを感じた。すぐさま1階の事務室に走り、緊急一斉放送で頭上からの落下物に注意を呼びかけた。このとき、図書室書庫の本棚が倒れ、プールに大きな三角波が立ち、水が溢れ出すなど大変な状況になっていたことなどは後ほどの報告で知ることになる。

イ 直後からの状況と対応

揺れが収まると、昇降口から屋外に生徒が集まり始め、生徒の安否確認が始まった。わずかな時間で残留生徒名簿ができあがったのは、職員の速やかな対応と、実習前の安全点呼が習慣になっていた生徒たちだからと考えている。

電車が不通となり駅から戻ってきた生徒や、徒歩等で帰宅する生徒、近隣からの

避難者が出入りしたため、途中の人数把握が難しかった。午後8時ごろには出入りも無くなり、帰宅困難な生徒25名と工場地帯の爆発炎上により幼児を含む19名(午後6時ころ)の避難住民がいたことから、男性職員29名が再避難に備えて(有毒ガス発生を考慮して)居残ってもらった。定時制は臨時休業とし、登校してきた生徒には、事情を説明して速やかに下校させた。全・定の職員に役割分担を示し、管理部主任を中心に非常食の確保、暖房の手配、千葉市の防災担当への連絡、保護者への連絡対応、避難者の案内誘導、深夜の巡回まで次々に行った。

ウ 当日の問題(課題)

大きな混乱はなかったものの、留意すべき点はいくつもあげられる。

- ・コンビナート火災に伴い、有害物質が雨などと一緒に降ってくるというチェーンメールが飛び交った。誤情報の見極めが必要である。
- ・非常食等の備蓄が無く、食料確保に困難を極めた。
- ・定時制は、給食の対応と生徒・保護者への連絡方法に課題が見つかった。
- ・一時的な避難の時に、身の安全を確保する場所として千葉市から「一次避難場所」の指定を受けている。「避難所(仮泊等収容が可能な施設など)」ではないため応急医薬品以外の備蓄品が無い。丁寧な対応を心がけたが、後日、対応の不備を指摘するメールが千葉市教育委員会に届いた。
- ・校内の避難場所の選定で、体育館は板の間そのもので暖房も不十分、室内環境の比較的良い生徒会館は斜面に接しているため不使用とした。結果として、柔道場の古畳が幸いし、生徒の仮泊場所となった。
- ・携帯電話が不通のため、帰宅困難な生徒に事務室の災害時優先電話を利用させた。
- ・保護者が迎えに来られない生徒や、遠方の生徒は引き渡しに困難だった。職員の自家用車で送り届けることを県教委に相談し対応した。

エ 新しく取り組んだこと

少し経ってからであるが、以下のようなことを行っている。

- ・校外活動の対応……強い余震が続いたことから、出先での帰宅困難などが懸念されたのでしばらく校外活動等を見合わせた。
- ・臨時連絡体制の確認……地理感の薄い校外活動先などにおいて、生徒と職員間でどのように連絡を取り合うかを今一度、確認するようになった。
- ・災害用伝言ダイヤル……「171」の緊急電話連絡の方法について周知を図った。
- ・地元町内会との連携……地元町内会から申し出があり、避難者受け入れや炊き出しなど、地元町内会との連携協力体制について検討を始めた。
- ・情報入手先を複数に……普通科のラジカセに新しい乾電池を入れるなど、複数の情報入手手段を確保した。

オ 気づいた点など

気づいた点やエピソードを以下にあげる。

- ・ 近隣市民には、「一時避難場所」と「避難所」の区別がつかない。備蓄品が提供されないことへの不満に留意し、特に丁寧な対応を心がける。学校と自治会の合同避難訓練を行い、地域との連携で解消を図る。
- ・ 遠方の電車通学者について、帰宅困難時の対応策を決めておくとよい。
- ・ 事務室の災害時優先電話が大活躍し、生徒や保護者の不安を解消した。
- ・ 不安な一夜を明かした避難者から、生徒たちの親切な対応に感激されたとの心のこもった礼状が届いた。生徒へは「自らできることを行おう」と指導していたことが良かったと考えている。
- ・ ガス設備を委託管理している会社の技術者が、いち早く点検に来校した。会社からの指示ではなく、自らの判断で来たそうである。技術者魂を感じさせる一件だった。
- ・ 学校の周辺環境（工場地帯や沿岸部、埋め立て地など）に応じた、リスク評価が欠かせないことがはっきりした。「…ケミカル火災発生」の非常無線放送に、有毒ガスの被害を予測した者も少なくないはずである。外気流入の少ない場所の確認など、避難計画に加えるのも有効だと考えている。



正門脇に立つ看板

カ 危険回避と自助・共助の視点が欠かせない防災訓練

黒煙が空を覆う中に黄白色に近い高温のキノコ雲が立ち上がったことや、四方から鳴り響くサイレン、帰宅困難、携帯電話の不通、わずかな非常食、甚大な被害を伝える報道など、次々に不安感が増す状況が重なり、避難者の中からパニックがいつ起きても不思議でない状態であった。実際に、当日の夕方、正門近くを通りがかった女性が大変不安そうにしていたので、生徒が声をかけ校内に案内している。後日のお礼状に、当時、とても心細かったことや声をかけてくれた生徒たちへの感謝の言葉が記されていた。

日ごろの防災訓練の講評などで、「最も危険な所は、高層エレベータと窓のない不特定多数の人が集まるところ（デパート、映画館など）だ」といった危険回避の視点や、「一般に、100人近くいればそのうちの数名が強い不安感を持ち、パニックの発端となりやすい」こと、また「避難者（弱者）がいたら、優しい言葉がけを行おう。小さい子には、手をつないであげよう。」など、生徒たちが自主的に判断していく心構えや具体的な対応策を伝えてきたことも有効だったように思われる。

ただし以上の報告は、地震が比較的被害の少ない時間帯に発生したことと、停電やガス漏れ、断水もなかったための結果報告である。今後の対応策の検討には、ライフラインの断絶や、全校生徒がいた場合の対処、また、校外行事の最中だった

場合の対応策も考慮に入れる必要がある。

地震防災研修に参加した職員から、大地震の後の数年以内に、同規模の大地震が続いて発生した記録が数多く残されていることが、全職員に伝えられた。また、千葉県の被災想定*の中には、校舎から見えるところに起きる東京湾北部地震（マグニチュード7.3を想定）が示されており、首都直下型地震の不安も解消されていない。今まさに、地域の避難場所でもある学校は、自助、共助の努力が求められていると同時に、生徒自らが正しい判断をする危険回避能力を身につけることなど、地域防災教育の重要性を強く感じている。

*：「千葉県防災ポータルサイト・地震被害想定ホームページ」に詳細が掲載されています。

<http://www.bousai.pref.chiba.lg.jp/portal/higaisoutei/index.html>

キ 発災時の学校内外の状況と対応など

| 時間 | その時の状況と対応など | 備考 |
|-------------|---|-----------------------------|
| 3/11 (金) | 学年末試験最終日、補習や部活動で校内に多数の生徒が残留していた。 | |
| 14:46 ころ | 2階普通科職員室 今までにない強い揺れを感じる。 (縦揺れのP派が感じられない、徐々に大きく揺さぶられるような地震動) | 大規模な地震発生を推測 |
| | 1階事務室に走り緊急一斉放送を開始する。 「頭上からの落下物に注意」「職員は、生徒の安全確保を！」「すぐにくる大きな余震に警戒」など | 地震発生、緊急放送 |
| | 校長に、緊急体制に入ることを確認。 | 校内緊急配備 |
| | 本館1階事務室に本部を設置する。 | 本部設置 |
| | 校舎内の生徒や職員が、生徒昇降口・玄関前に集まりはじめる(本来の避難場所は校庭)。 | 玄関前に集合 生徒・職員の安否確認 |
| | 居合わせた職員が、自主的に生徒の点呼をはじめる(危機管理マニュアルの安否確認開始) | 生徒 61名、負傷者 0名 |
| | JFEスチール東日本製鉄所で 地震のすぐ後に黒煙が上がる。 | 近隣環境の危機 |
| | (地震の直後に上がった炎や煙は、ガスを燃焼させた安全上の措置だったことが、後日判明。) | |
| | 職員からの通報 体育館脇のプールから、水があふれ出るように大きく揺れていた。負傷者なし。 | 校内情報の集約 |
| | 職員からの通報 図書室書庫が転倒し、書架の図書がすべて落下した。負傷者なし。 | 校内情報の集約 |
| | 放送と電話で、体育館・工業各科の実習室や機器・薬品等の被害状況を確認 | 被害状況確認 |

| | | |
|----------|---|--|
| | 玄関先の高速道路が渋滞し、近隣から救急車のサイレンが響き、不安感が高まる。 | 危険予測 通学路等の危機 |
| | 近隣の駅に運行状況の確認電話を入れるが、不通。 | 交通状況確認 交通遮断 |
| | TV, web で情報収集。 | 緊急情報の確認 |
| | テレビ画面から、千葉県沿岸部に波高10m以上の津波警報が流れ、甚大な被害を予想する。 | 正確な情報収集が必要 |
| | 校外活動の部活動生徒等を確認。 | 校外の生徒の安否確認 |
| 15:30 ころ | 携帯電話がつながりにくく、生徒が自宅への連絡が取れないことに不安な様子が見られた。 | 携帯電話の不通と不安感増大 |
| | 保護者から、生徒の安否確認の問い合わせの電話が入るが、個々に対応ができないことを伝え、後刻、再度の連絡をお願いした。 | 保護者の安否確認対応 |
| | 職員室に戻り、近くの職員に飲料水の確保を依頼する。 | 飲料水の確保 |
| | 不幸中の幸い 電気・ガス・水道に影響無し。 | インフラの確認 |
| | 近隣の火災状況が確認できず、生徒の下校を停止する。 | 生徒の安全確保 |
| 15:50 ころ | 市原方面のLPGタンク付近で火災が発生、その後爆発炎上(3月21日の鎮火まで10日間に渡り炎上)。 | 危機感の高まり |
| | 電車不通により、下校途中の生徒が戻ってきた。 | 生徒 69名 |
| | 近隣の放送塔から、「…でケミカル火災が発生しました…」の報が流れる。 | 防災無線放送 |
| | 有毒ガスの発生を危惧する。本校は、高台にあるので、風向きによっては被害が発生することを強く心配した。 | 近隣環境の危険を予測 |
| | 「有毒ガス発生、要注意」を知らせるチェーンメール着信。 | 誤情報の発生 |
| | 夕暮れが近づき、徒歩等で帰宅可能な生徒に、注意を与え帰宅を許可する。・崖地の近くや不安定な路肩を通らない / ・危険車両を予測すること / ・破断した電線(感電)に注意 など | 一部生徒の条件付き帰宅 8名 帰宅者名簿作成(場所, 所用時間も確認する) |
| | ガスタンクの火災によるキノコ雲の火柱と爆発音が数度もあり、危険感が強まる。 | 危機感の高まり |
| 16:30 ころ | 帰宅困難生徒と職員を確認し柔道場に移動、校内の避難場所とする。TVを設置し情報提供を図る。 | 校内に避難場所を設営 |
| | 校内残留生徒と対応職員のため、食糧確保に校外へ出る。 | 非常食確保 |
| | 夕方の空に、巨大な火炎が立ち上りはじめたころ、近隣住民の避難者が続く。 | 避難民対応 |
| | 避難者を誘導するとともに、非常食や毛布などの提供ができないことを伝える。 | 避難場所の不備な点 |
| | | |

| | | |
|----------|--|---------------------------|
| | ガス会社から技術者が来校, 点検を開始。 | ガス設備の点検(専門技術者) |
| 17:00 ころ | 千葉市担当窓口, 市民の避難があることと, 非常食等の用意の有無を確認。 千葉市側からの職員の配置と非常食等の手配が無いことがわかる。 | 千葉市への報告 |
| | 一時避難の「避難場所」に備蓄品が無いことを不満に感じる方がいたようだ。 近隣住民 約30名近くが来校するも, 他の避難所へ移る方, 帰宅者が出る。 | 備蓄品への期待と失望 |
| | コンビニート付近から幾筋も火炎と煙が立ち上り鎮火の気配が無い。 有毒ガスの発生を危惧する。風向きによっては, 被害が発生することを心配した。 | 環境の危険を予測 |
| | 生徒・職員のパニックを警戒し, 避難指示の放送を見合わせ様子を見ることにした。 | パニック発生を警戒 |
| | 保護者の出迎えに, 近隣生徒の相乗りを依頼。 | 保護者の出迎え随時対応 |
| 18:00 ころ | 事務室の電話を生徒に開放し, 家族へ連絡を取らせる。以降, 22:30 ころまで電話連絡が続く。 | 災害時優先電話で保護者へ連絡 |
| | 女子職員, 家族の対応が必要な職員等に退勤してもらう。 | 対応職員の再配置 |
| 19:30 ころ | 確保した菓子パンと牛乳を配布する。 | 非常食の配布 |
| 20:00 ころ | ニュース等で東北地方の甚大な被害を知り, 不安感を高める。 | 不安感の増大 |
| 20:45 ころ | 県教委に電話連絡。 | 生徒 25名, 近隣住民 6名 職員 34名 |
| 22:00 ころ | 近隣住民が女性と子供ばかりだったので, 座敷のある用務員室へ移動してもらう。 | 近隣住民6名 (用務員室に仮泊) |
| | | |
| 3/12 (土) | この間, 随時, 巡回し, 生徒に異常が無いことを確認する。 | |
| 5:45 ころ | 早朝点呼を行う。 | 残留生徒15名, 近隣住民6名 |
| 6:00 ころ | 非常食(菓子パン)を配布する。用務員室の避難住民が帰宅する。 | |
| 8:00 ころ | 県教委へ報告する。 | 残留生徒15名, 近隣住民0名 |

| | | |
|----------|--|------------------|
| 9:00 ころ | 県教委に相談し、 帰宅困難生徒の緊急避難対応 として、職員の自家用車で生徒を送ることを決める。携帯電話等が回復しつつあることを確認する。出迎え困難な家庭へ、帰宅開始の連絡をする。 | 帰宅困難生徒の対応 |
| 10:00 ころ | 千葉市職員が来校し、非常食(菓子パン)を受領する。 | |
| 13:00 ころ | 生徒の帰着等を確認し、本部を解散する。 | |
| 15:30 ころ | 最後に帰着した職員から連絡を受け、全員無事を確認する。 | |